

自然と文化科 活動記録 (研究部共通講座)

日時	2024年9月6日(金) 10:00~15:00	担当者
場所	午前：共通講座 福島区民センター 午後：各班別活動	文：松平 盛夫 写真：松川 淑子
備考	参加者数 1班 20名 2班 18名 3班 16名 4班 17名 合計 73名	

1. 講演のテーマ：「糞虫の生態とその魅力」
2. 講演者：ならまち糞虫館 館長 中村圭一（フン虫王子）
3. 講演者略歴： シニア自然大学校 24期生。
2018年7月 奈良市南城戸町に「ならまち糞虫館」をオープン
4. 講演要旨：

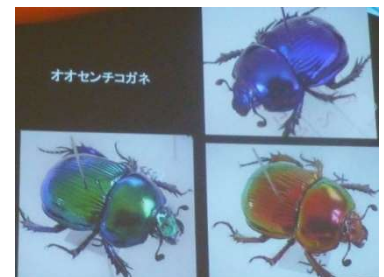


①糞虫の基礎知識

糞虫とは、糞を食べるコガネムシのことであり、日本に170種生息する。その内6種が糞を丸めるフンコロガシであり、逆立ちして後ろ足で糞球を転がすスカラベは1種（マメダルマコガメ）のみ。スカラベとは、古代エジプトで復活の象徴として崇められた糞虫が語源。

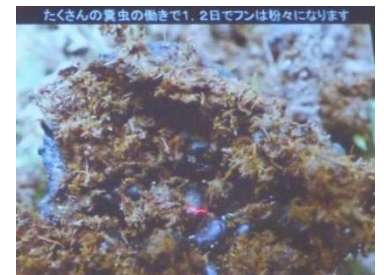
②日本の糞虫の特徴

- ・オオセンチコガネは、地域によって色が違う構造色の綺麗な糞虫です。特に奈良のオオセンチコガネは、濃い青色なのでルリセンチコガネとも呼ばれている。地域によって色が違うが、理由は解明されていない。
- ・ゴホンダイコクコガネのオスには、立派な5本の角がある。ダイコクコガネの仲間は、糞を丸めてその中に産卵し、孵化した幼虫は、その中で糞を食べて成長する。近年、牧場では牛の寄生虫駆除薬（イベルメクチン）が多用され、牛の糞の中にイベルメクチンが含まれるようになり、幼虫が食べると死んでしまう。ダイコクコガネは、絶滅しつつある。



③日本の糞虫の生態

- ・最近、シカが増えて食害が問題となっているが、シカの糞を好む糞虫にとっては朗報である。
- ・糞虫は、コガネムシの仲間で、完全変態する。新鮮な糞の匂いを嗅ぎつけて、すぐに集まってくる。その場で糞に潜り込んで食べるもの、糞を丸めて巣（地下）に運び込むものもいる。また、糞の中に産卵するもの、糞球を作りその中に産卵するもの、さらに成虫になるまで世話をするものなど、生態は多様である。
- ・糞虫は、大事な益虫である。奈良公園では、約1300頭の鹿から1t/日の糞が出るが、その全てを糞虫が処理している。もしも人手で処理するとすれば、年間100億円の費用がかかると推定される。
- ・オーストラリアやニュージーランドは、牧畜のために糞虫を国外から導入している。



5. 所感

生態系の中で草食哺乳類の糞を分解する非常に重要な糞虫の役割を理解することができた。また、種によって様々な進化した生態も、非常に興味深いものであった。

6. 班別活動（午後）

- 1班：福島消防署にて救命講習会
- 2班：松下電器創業の家と工場跡を訪れた後、大阪市下水道科学館見学
- 3班：大阪地方裁判所見学
- 4班：昼食会

